

「クローン病完治まで」小西 竜二 32歳

2009年4月5日

これは、私が一般的な胃腸科でクローン病と診断され、その後3年を経て松本医院にて完治するまでを記録した手記です。現代医学ではクローン病は治らない病気と言われていますが、松本先生は私の病気を実際に治してくださいました。私の場合、クローン病と診断される前に痔ろうになりましたので、長くなりますがその時点から書き始めたいと思います。もちろんこの時点で私は松本先生のごことは全く知りませんでした。

痔ろう手術を受ける

仕事で非常に忙しい日々を過ごしていた2005年の春、肛門に違和感を感じるようになりました。当初は市販の痔の薬を塗っていましたが、1週間ほどで急速に痛むようになったため、近所の肛門科で見てもらったところ切れ痔と診断されました。しかし、その直後から激痛を伴うようになったため別の痔で有名な病院で診てもらったところ、痔ろうと診断され緊急で手術を受けることになりました。これが2005年の8月終わりのこと。診断としては2型の痔ろう。最初に診てもらった肛門科で早急に痔ろうと診断されていれば1型で済んでいたのではないかと悔やまれました。そして9月に入り手術を行うため1か月入院。ちょうど仕事で忙しさのピークを迎えた時期でしたので、今から思えばあの激務がたたったのではないかと思います。当時の私には何も分からずただ言われるがままに入院し、そして手術を受けました。当初、痔ろうの患部は1か所だけと思われていましたが、手術中にもう1か所が見つかり2か所を同時に切除。約20日間の入院を経て退院前に受けた大腸検査にて、大腸から小腸へ20cmくらい入ったところ周辺、盲腸の辺りに炎症が見つかりました。

クローン病を知る

大腸検査の後、担当の先生と話した中で、一般的に自分のように比較的若いのに関わらずコレステロールが低く、やせ型でよく下痢になり色白のタイプの場合、クローン病の可能性が高いと言われました。クローン病はよく痔ろうを併発するらしいので、自分の場合痔ろうが同時に2か所発生している事からも、クローン病である可能性が高いため、大腸検査中に採取した大腸の細胞検査をし、その結果が出てから今後のことを考えることになりました。クローン病の名前を聞いたのはこの時が初めてで、当時は何も知らなかったので何とも思い

ませんでした。クローン病という病気が本当に恐ろしい病気だということを知り、その後自分で調べるようになりました。実は私は当時からベジタリアンだったため、自分のようにベジタリアンの人がクローン病なるのは非常に珍しく、その点について先生は疑問に思っていました。今後の食生活は今まで通りにベジタリアンでいる事を薦められました。

その後、細胞組織検査の結果が出て、クローン病の細胞は見つかりませんが、まだ絶対にクローン病ではないとは言い切れないとわれ、さらにコレステロール値が低すぎるので、小腸に何か問題がある可能性が高いため、それ以来クローン病の専門の先生に診てもらうことになりました。一応、クローン病の細胞が見つからなかったということで、とりあえずは安心しましたが、しかしその後慢性的な下痢が続くようになったのです。

慢性的な下痢

2005年10月に痔ろうの手術から退院してから数カ月後、下痢が慢性的に続く様になりました。この間、クローン病の可能性もあるということで主治医に定期的に見てもらっており、ロペミンやサイレイトウ、ビオフェルミン、タンナルビンなど漢方も含め様々な下痢止めの薬を処方されたのにも関わらず、ずっと下痢が続いたままでした。主治医の診断では、このように痔ろうを発症して慢性的に下痢が続くのはクローン病の可能性が高いが、細胞組織検査ではシロという結果が出たため、今の時点でクローン病とは断定できない、というものでした。私個人としては、仕事やプライベートでもストレスの高い日々が続いていましたので、このストレスさえなくなればきっと治るだろうと気軽に考えていましたが、もしかしたら本当にクローン病なのではないか、という思いも日に日に増していきました。このころから食べ物にさらに気をつかうようになり、日々の食事を記録して下痢にならないようにいろいろ食べ物を変えたりしてみました。特に乳製品を食べると症状が悪化しましたが、しかし一般に消化が良いとされている食事内容でも下痢が続き、明らかに普通ではなくなっていました。このような状態がおよそ半年間続き、その間主治医には継続的に見てもらっていましたが、しかし、診察の結果は毎回「もうしばらく様子を見ましょう」でした。主治医としては慎重に診断するつもりだったのでしょうが、その間にも私の症状は進行していき、いつまで経っても改善の兆候がみられません。2006年の4月ごろはほぼ毎日下痢で、1日に3回トイレへ行くこともしばしば。主治医に対する私の信頼も薄らいでいき、他の先生にも見てもらった方が良いのではないかと、ついに別の病院で検査をしてもらうことにしました。

クローン病と診断される

慢性的な下痢が続いていた2006年の5月、近くの大病院にて検査を受けました。検査内容は胃カメラと大腸カメラ。そしてその結果、ついにクローン病と診断されました。この時点で、私はすでにクローン病のことも色々調べていましたし、ほぼ間違いなくクローン病だろうと思っていましたのでそれほどのショックは無く、それどころかそれまでの半年間、原因がよく分からないまま下痢止め薬を飲み続けていましたので、明確な診断がついたことにホッとした感さえありました。しかし、私の母親など、周りの人たちにとってはとてもショックだったようです。

このとき処方されたのはペンタサとエレンタールでした。先生の説明ではエレンタールを経口摂取するのは味の面でなかなか難しいが、しかしこの2つはクローン病治療ではまず基本となるものだからしっかり頑張って飲み続けてください、と言われました。処方されたエレンタールの量は1日2パック。この時点で私の体重は54.8Kgでした。

クローン病治療で有名な病院へ

ペンタサと1日2パックのエレンタールでクローン病の治療を開始してから約1カ月後のある日、ふくらはぎが急に筋肉痛になり39度の発熱、その後継続的に37度から38度の微熱が続くようになりました。病院で診察してもらったところクローン病の症状で腸に炎症が起きており、それが原因で発熱しているといわれました。CRPは4でした。対処としてエレンタールの量を1日4パックに増やしてもらい、依然食事をとっていましたが中々熱が下がりませんでした。このころからインターネットでクローン病患者の方たちと情報を交換するようになっていたため、その方たちに相談したところ、こういう場合には食事は一切取らず、エレンタールのみにした方が良いとアドバイスされました。また、クローン病の治療で有名な病院を紹介していただき、そちらにかかった方が良いと言われました。アドバイス通りにしてみたところ3,4日ほどで熱が下がり、やはりクローン病の専門医でないとこういった場合の対処に不安があると思い、紹介してもらった病院で診てもらおうようになりました。

3年間のエレンタール

こうしてクローン病の専門医の下、私のクローン病治療が始まりました。治療内容は基本的にエレンタール。体調が良い時は消化の良いクローン食といわれる食事をとっていましたが、時々下痢になるためその時はエレンタールのみ摂取する、という治療方法でした。当初、約半年間はペンタサを飲んでいましたが女性化乳房が発症したため飲むのをやめ、特にそれによって症状が悪くなることもありませんでした。体重は最も低い時で54Kgでしたが、半年後には63Kg

まで回復しました。ただし、これでクローン病が治癒するわけではなく対処療法であるため、永遠にこれが続くのだと覚悟を決めるしかありません。いつの日かクローン病が完治する薬が開発されるまで、エレンタールで我慢するしかないと思っていました。1年ほど経過した時点で、QOL向上を目的として夜間のエレンタール経鼻経管法も始めました。このころになるとクローン病患者として完全に板についてきていましたが、毎年の特定期間の更新のために受ける大腸検査が辛く憂鬱でした。他のクローン病患者の方たちとの交流も深まり様々な情報をやりとりするようになり、プレドニゾロンやレミケードなど、クローン病の治療に使われる薬についての知識も増えました。しかし結局のところ一番はエレンタールを続けることであり、如何に食事を我慢しエレンタールを飲み続けるか、が最も大切なポイントと理解していました。このような治療が松本医院へかかるまでの3年間続きました。

知人からアトピーを治す先生の話

2008年の春、とある知り合いからアトピーを治せる先生が大阪にいると松本医院のことを紹介してもらいました。実はその頃私には半年ほどになる息子がいて、アトピーで悩んでいたのです。当初、アトピーは現代医療では治せないと思っていたのですが、半信半疑で松本医院のホームページを読んでみると、アトピーだけでなくリウマチも治せると書いてあり興味をひかれました。リウマチもクローン病も発症原因は同じということは知っていたので、ひょっとしたらクローン病も治せると言うのではないかと思ったのです。さらにホームページを読んでみると、クローン病などの膠原病の発症理由や完治するまでの説明が論理的に書いてあり、その説明は納得のいくものでした。このままエレンタールを飲み続けてもクローン病が治ることは絶対に無いし、実際に知り合いの方のアトピーが治ったという話を聞き、一度相談してみようということになったのです。そして初めて松本医院の扉を叩いたのは2008年の夏でした。

松本医院

初めてお会いした松本先生は、事前にインターネットの手記で読んだ通り非常に情熱的な方でした。私のそれまでの経過を説明したところ、直ぐに先生は私はクローン病ではなく潰瘍性大腸炎の可能性が高いとおっしゃいました。確かに過去それまで他の先生に診てもらった時でも、クローン病というほどには症状は重くはないということは言われた事がありましたが、それでもクローン病ではないとはっきり言われた事は無かったので、私の場合は軽度のクローン病だと思い込んでいました。しかし松本先生は少し診ただけで直ぐにそれを判断

されたので、その事に非常に驚きました。そして松本先生の言われた事で印象的だったのが次のような言葉でした。「医者が病気を作り出し、製薬会社が儲かる仕組みになってしまつとるんじゃ。」この言葉の意味は、なんとなく私にもわかりました。クローン病の患者の方たちを見ていると、免疫抑制剤による治療で薬漬けになり元の生活に戻れなくなってしまう人も居たからです。そして松本先生は力強く私の手握り「俺が絶対に治してやるから安心しろ」と言ってくださり、断痢湯という漢方薬を処方されました。

断痢湯

生薬というものを目にしたのは私にとっては生れてはじめてでした。もちろん断痢湯というのを聞くのも初めてで、見た目はおがくずにしか見えないようなものですが、これをお湯で煎じて飲むのです。味は非常に苦く飲むのが苦痛でしたが、驚いたことに飲んだ次の日から便の状態が明らかに良くなったのです。松本先生曰くこの苦さが体に効くということでしたので頑張つて飲みました。とはいえ、この生薬がどのような効能があるのか、インターネットで調べても「治りにくい下痢を止める」としか書いてありません。本当にこれでクローン病が完治するのか、一時的に下痢を止めているだけで、ただ単に対処療法なのではないか、といった不安は常にありました。しかし、9月から飲み始めて1か月も経つと、この断痢湯の効果が過去に飲んだ様々な薬のそれとは明らかに違うことを実感しました。それまで続けていた夜間のエレンタール経鼻経管法も無くなり、食事の量を増やしても全く下痢にならず、便も1日1回、固形の状態で出るようになりました。2か月も経過したころにはほとんどエレンタールを飲まなくてもよくなり、これは本当に完治するのではないかと思うようになりました。そして、いつか松本先生のおっしゃる通りクラススイッチが起き湿疹が出てこればもう完治まであと1歩だと、湿疹の出てくるのを今か今かと待つようになったのです。

湿疹と便秘

2008年の暮、ついに待望の湿疹が出ました。このころにはエレンタールは全く飲んでおらず、食事も一般の健常者と同じように食べていました。便の状態は下痢になることは全くなく、それどころか若干便秘気味にもなっていました。湿疹は腰のまわり一帯と、左上腕の一部。考えてみれば8月から断痢湯を飲み始めてたったの4か月しか経っていませんでしたので、本当にこれがクローン病完治のサインなのか不安でしたが、松本先生にもう一度診ていただくともう断痢湯は飲まなくてもよいとおっしゃいました。そして、もうしばらく様子を見ないと分からないが、クローン病は治った可能性は高いと。本当にすごいこ

とだと思いました。西洋医学では一生治らないといわれているクローン病が、松本医院にかかったら治ってしまった。まだこの時点では断定できませんでしたが、私の中ではもう間違いなく治ったと思っていました。そして断痢湯を飲まなくなると3か月が経過、それまでの3年間は嘘だったかのように全く元の健常者と同じ、健康な日々を送れるようになりました。松本先生はクローン病ではなく潰瘍性大腸炎だったとおっしゃっていましたが、いずれにせよ他の病院ではクローン病と診断された私の病気が、松本医院にかかってからたったの半年で完治してしまったのです。

そしてクローン病完治

このように私の場合、通常の胃腸科でクローン病と診断されたものが、松本先生の漢方で完全に完治しました。体重はエレンタールを飲んでいたころに比べると若干下がって61Kg前後ですが、今では食事はまったく気にすることなく食べています。食事の内容を細かく記録していたあの3年間はいったい何だったのでしょうか。私の場合不幸中の幸いだったのが、クローン病とは診断されたもののエレンタールによる栄養療法が適用され、そしてプレドニゾロンなどの免疫抑制剤が一切使用されなかったことでしょう。他のクローン病患者さんの経験を聞くと、こういった免疫抑制剤の連続投与によってどんどん体が壊れていってしまうようです。免疫抑制剤とは本当に恐ろしい薬で、これを使ったか使っていないかでその後の経過に雲泥の差がでるようです。要は一度使いだすとやめられなくなってしまうのですね。少しでも止めると激しいリバウンドが出ますから。それでも副作用を我慢しながら続けていくしかなくなってしまう。それに対して私の場合、ずっとエレンタールのみ摂取してきたおかげで、腸の状態を悪化させることなく、そして免疫抑制剤を使用する前に松本医院に出会えたのが、今回のこの成功の要因なのだと思います。もし我慢できずに食べ物を食べてしまっていたら、症状が悪化して、そして免疫抑制剤に頼ってしまっていたかもしれません。

終りに

アトピーの息子はいまだ治療の最中ですが、いずれ完治するだろうと思っています。何より、人工的な薬物を一切使用しない治療方法なので、親としてもとても安心できます。人間の体というのは不思議ですね。現代医学では治せない病気が、漢方で治ってしまう。今回の経験で科学の限界というものを身をもって知ることができました。他の方でも私と同じようにクローン病で悩んでいる人は、ぜひ一度松本先生に会ってみてほしいと思います。最後まで読んでくださりありがとうございました。